

「A」次の文の(訳)の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 こなたはあらはにや侍らむ。今日しも端におはしましけるかな。(源氏物語)

- (訳) こちらは「」 「はございせんか。今日に限って端近なところにいらつしやいましたね。  
①正面で ②眺めが悪く ③まる見えで ④危険で

2 人を見るに、少し心あるきはは、皆このあらましにてぞ一期は過ぐめる。(徒然草)

- (訳) 人を見てみると、少しものの道理がわかる「」 「の人は、みなこの(出家の)心づもりで一生は過ぎ  
てしまうようだ。  
①程度 ②少数 ③世代 ④普通

3 昔、男、陸奥の国にすずろに行きいたりにけり。(伊勢物語)

- (訳) 昔、ある男が、奥州へ「」 「行き着いた。  
①やつのことで ②遠回りして ③あてもなく ④急ぎ足で

4 名をば大納言の大別当とぞいひける。こちなかりし名なりかし。(古今著聞集)

- (訳) 名を大納言の大別当と言った。「」 「名前であったよ。  
①風流な ②平凡な ③新奇な ④無骨な

5 世になく清らなる玉の男皇子さへ生まれ給ひぬ。(源氏物語)

- (訳) 世にまたとなく「」 「玉のような皇子までがお生まれになった。  
①神々しい ②愛らしい ③みずみずしい ④美しい

6 冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず。(枕草子)

- (訳) 冬は早朝(が趣深い)。雪が降っているときは「」。  
①語ってはいけない ②しかたがない ③言葉にできない ④言うまでもない

7 観音を頼み奉らん、その験なしといふことは、あるまじきことなり。(宇治拾遺物語)

- (訳) 観音様におすがりして、その「」 「がないということは、あるはずがないことだ。  
①ご挨拶 ②ご経験 ③ご招待 ④ご利益

8 いとまめに実用にて、あだなる心なかりけり。(伊勢物語)

- (訳) 大変まじめで実直で、「」 「心はなかった。  
①不誠実な ②不用意な ③ごさかしい ④情けない

「B」次の文の(訳)の「」に入る語句を答えよ。

9 今様は、むげにいやくこそなりゆくめれ。(徒然草)

- (訳) 当世風は、「」 「下品になっていくようだ。 9 「」

10 をかしげなる児の、あからさまに抱きて遊ばしうつくしむほどに、かい付きて寝たる、いとらうたし。(枕草子)

- (訳) かわいらしい幼児が、「」 「抱いて遊ばせかわいがっているうちに、抱きついて寝てしまったのは、  
とてもかわい。 10 「」

11 おはやけの宮仕へしければ、常にはえまうです。(伊勢物語)

- (訳) 「」 「へのご奉仕をしていたので、ふだんは(主君のもとへ)参上できない。 11 「」

12 一人はいやしき男の貧しき、一人はあてなる男もたりけり。(伊勢物語)

- (訳) (姉妹のうちの)一人は身分の低い男で貧しい男を、もう一人は「」 「男を夫としていた。 12 「」

解答

【新三年生用】 古文単語383訂版 P 1 1 2 ～ P 1 1 9

- 1 「 ③ 」
- 2 「 ① 」
- 3 「 ③ 」
- 4 「 ④ 」
- 5 「 ④ 」
- 6 「 ④ 」
- 7 「 ④ 」
- 8 「 ① 」
- 9 「 むやみに 」
- 10 「 ちよつとの間 」
- 11 「 朝廷 」
- 12 「 身分の高い 」